

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、
核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、
すべての国に求めます。

人類は今、破壊への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使用したり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器・化学兵器について、使用・開発・生産・保有を条約、議定書などで禁じてきました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

----- <この署名は、国連に提出します> -----

よびかけ被爆者代表

坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三【以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員】
田中熙巳【日本被団協・事務局長】、郭貴勲【韓国原爆被害者協会・名誉会長】
向井司【北米原爆被害者の会・会長】、森田隆【ブラジル被爆者平和協会・会長】
サーロー・セツコ【カナダ在住】、山下泰昭【メキシコ在住】

ヒバクシャ国際署名連絡会 連絡先

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番5号 ゲイブルビル902
電話：03(3438)1897 HP：hibakusha-appeal.net



特別企画

HIBAKUSHA APPEAL ヒバクシャ国際署名 ご協力をお願いします

今年は広島、長崎に原爆が投下されて**75年目**になります。2016年に被爆者の皆さんが始めた**ヒバクシャ国際署名**は、全世界で2020年3月末現在、累計**1184万3549筆**になりました。

この署名は「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」という被爆者の皆さんの思いから始まりました。そして、この署名が2017年核兵器禁止条約の採択につながりました。核兵器禁止条約の発効には50カ国の批准が必要ですが、7月7日現在批准した国は39カ国です。日本をはじめ、全世界の国が批准するように、世界世論を動かしましょう。

被爆75年、節目の年に

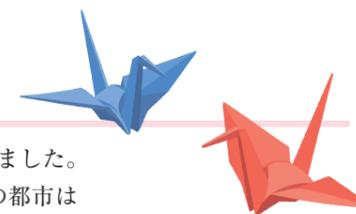
今年是被爆75年、節目の年となりました。私は、昭和十年生まれです。9歳の時、広島で被爆。当時国民学校4年生。毎年夏の陽射しを感じる頃になると、あの日のことが思い出されます。

その日は登校日でした。2階の教室から校庭に降りた時、オレンジ色の光を浴びました。熱さは感じませんでしたが、何の光？と思う間もなく、強烈な爆風とガラスの割れる音を耳にしました。これが「ピカドン」だったのです。急いで教室に駆け戻ると、教室は無茶苦茶になっていました。窓越しに見ると南の方には大きな雲のかたまりが見えました。

「原爆が落ちると、昼が夜になって、人は

みなお化けになる」と言った人がいました。1945年8月6日広島、9日長崎と二つの都市は一瞬にして「お化け」の街になりました。私は、当日の黒い雨とあの地獄のような光景を今も忘れる事はできません。幼かった私たち被爆者もみな高齢者となりましたが、高齢に鞭打ちながらも「核兵器廃止」「ふたたび被爆者をつくるな」「人類にとっての平和と核兵器の非人道性」を訴えていきたいと思えます。

無言で死んでいった被爆者たちは言いたいことが山ほどあったはずですが、だから、私たちは代弁者として、これからも平和な世界を目指して、活動していきたいと考えます。



岐阜県原爆被爆者の会 会長
かた ひろこ
加田 弘子 さん

『署名をする人から、署名を呼びかける人』に

皆さんに署名をお願いして、4年目になりました。10月の国連総会に最終提出の予定なので、9月が最終集約です。

ヒバクシャの方々には80歳以上の高齢の方が多くなり、彼らは自分が生きている間に核兵器の廃絶を求めています。自分たちが受けた同じ苦しみを味わわせたくないという願いが、3年前に採択された核兵器禁止条約は20条から構成されており、核兵器の開発・保有・使用等は全面的に禁止となる他、国は核兵器によって被害を受けた人に対して医療を始め十分な支援をしなければならないとなっています。

残念ながら、核兵器の被害を受けた日本は、批准も署名もしていません。

昨年、署名を呼びかける県内首長さんの写真入りのポスターも作成、42市町村中38市町村(2020.7)の首長さんに署名して頂きました。

今年新型コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭署名も平和行進も中止になり、思うように活動することが出来ませんでした。

この署名が日本政府を動かし、核兵器禁止条約に日本が批准する日が来るのを願って、『署名をする人から、署名を呼びかける人』になりましょう。



「ヒバクシャ国際署名」を
すすめる岐阜県民の会
あかつか
赤塚 さとみ さん

コープぎふでは、41,569筆(3月現在)署名をいただきました。

まだ、署名されていない方はもちろん、署名をされた方は、まわりのまだ知らない方へお知らせください。

キリトリ線で切り、地域担当者または店舗サービスカウンターまでご提出ください。